

## ゴールデンウィーク、とある光景



渡島医師会  
望ヶ丘医院

田中 慈雄

函館はゴールデンウィークに桜が満開になった。いつもだいたいゴールデンウィーク頃が桜の見頃だが、今年は北海道新幹線開通もあいまってか、桜の名所の五稜郭にはお客さんがいつも以上にいっぱい来てくれた。

五稜郭の堀には貸しボート屋さんがある。私の子どもの頃からあり、あまりに見慣れた風景なので気に留めることはあまりなかったが、今年は久しぶりにボートに乗ってみることにした。昔に比べてボートの数は少なくなったようで、いつもは並ぶことなどないと思うが、この時は並ばなければならなかった。待っている間、はて、最後に乗ったのはいつ頃だろうか、と考えていたが、もしかしたら、子どもの頃に父と一緒に乗った記憶しかない。小学6年としても35年前だ。辞めずに存続していた貸しボート屋さんはたいしたものだ。そうなると思いが一気に吹き出てくる。父親のボート漕ぎを見よう見まねでやってみてもなかなかスピードが上がらなかったこと、オールのスロッパーが付いていないので、オールから手を離したら堀にオールが落ちてしまったこと、公園裏門の橋のあたりに群生していた蓮にオールが絡まって脱出に難渋したこと、などなど。

順番が来た。やっぱりオールにはスロッパーは付いていない。大沼のボートには付いているのでオールから手を離しても大丈夫だが、ここではオールから手を離すときはオールをボート内に入れないとまらない。オールは木の無垢で、滑り止めなどの気の利いたものはない。堀を抜ける風は若干肌寒いものの、漕いでいればすぐに汗が出てくる。堀から眺める桜も見事の一言に尽きる。昔に比べて成長した桜が枝を堀に向かって伸ばし、花が水面に映る景色など素晴らしい。写真は撮らない。海馬→大脳皮質に記録する。有効期限には若干の不安はある。

快調にボートを漕いでいると、若いカップルの乗ったボートを追い越した。漕いでいるのは彼氏、トモの方に座っているのは彼女。このところ男女の関係もなんだかあやふやな印象だが、古風な思想の私としては、当然の光景に微笑ましくもある。が、ボートは進んでいない。どうやらボートの漕ぎ方が分からないようだ。これはいかん、年長者としては若者を正しく導く義務がある。俺だって父の漕ぎ方を見て覚えたのだ。ただ、彼女の手前、彼氏にもプラ

イドがあるだろうから、直接細かに教えることはしない。彼らのボートの近くをわざとゆっくり漕ぎ、彼に聞こえるように同乗していた妻に漕ぎ方の説明をした。オールの先端を水面につけて水をかいて進む、ということは理解してくれたようだが、漕ぎ手の背中に向かって進むということはなかなか理解してもらえなかったようだ。腕を曲げたときにオールの先端を水面に入れ、腕を伸ばすように水をかく、よって、彼のボートは漕ぎ手の正面に向かって進む。ボートは後進している。まあ、彼にしてみればボートを進めた記念すべき日であろうし、周辺を進むボートを見れば、多少は工夫してやってくれることを期待し、ボートの制限時間もあるので、多少スピードを上げてお堀の一周を目指した。裏門付近のサルガッソー海のような（行ったことはないが）蓮の群生はなかった。掃除されたのであろうか。

わりと汗だくになりながら、一周を終えてボート返却。五稜郭に近接する六花亭も混雑していたが、見事な桜の借景を見つつコーヒーとケーキを頂き、あのカップルはどうなったか話題にしながら歩いていたら、なんとあのカップルは堀一周を目指しているのではないか。ボートは後進のままゆっくりと進んでいる。彼女はボートが遅いことになりご立腹のようで、懸命に漕ぐ彼氏を罵倒している。根性はあるそうだが、人のやり方を見て学ぶことはできなかったようだ。そういえばうちのクリニックにも、人のやり方を見て覚えることなど期待もできない、教えたことしかできない若者が2人ほどいる。このような若者が普通になっていくのだろうか。3人目はきついなあ、と思いながらジンギスカンの香りのする桜の下を歩く。あのカップル、時間超過料金はいくらになったのか。大目に見てもらったのか、いや、世間の荒波は堀の水面のように優しくはない、しっかり取るべきであろう。はて、どうなったのかな。

